

シンガポールだより VOL.35

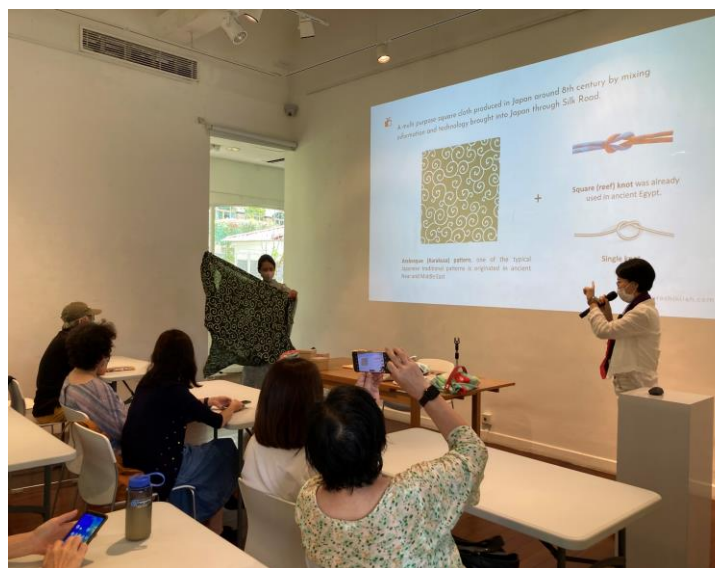


皆様、こんにちは。小山市よりクレアシンガポール事務所に赴任しております、中田です。前回のシンガポールだよりでコロナの規制緩和について触れましたが、現在シンガポールをはじめとする東南アジアの国々では、ワクチン接種要件を満たしていれば出入国時の検査や市内での行動規制はほとんどなくなり、コロナ禍前の往来にかなり近づいてきたのではないかと感じています。クレアシンガポール事務所においても、様々な事業が急速に動き出し、4月以降、所員がマレーシアやタイといった近隣の国へ出張を行う機会が大幅に増えています。

さて、先日シンガポール日本国大使館の日本文化に関する情報発信拠点であるジャパン・クリエイティブ・センター(JCC)主催の「ふろしきワークショップ」取材する機会がありました。JCCでは、コロナ禍においてもオンラインでの日本文化発信に取り組んでいましたが、参加者が集まったのワークショップは実に約2年ぶりとのこと。ワークショップは午前の部、午後の部とあり、それぞれ20名の定員が予定されていたところ、どちらも募集直後に定員が埋まってしまったことから急遽定員を30名に引き上げたとのこと。加えて、参加者は全員が現地の方であったとのことで、日本文化の体験に対する極めて高い関心を感じたところ。

ワークショップでは、日本において風呂敷がどのように用いられてきたか、また、日本で長く愛される漫画作品やアニメ、さらには近年の風呂敷をモチーフとしたキャラクターなどといった、創作に見られる風呂敷などもふまえながら、日本人にとって馴染みの深い風呂敷が、生活においてどのような存在であったのかなど講師からお話がありました。後半では、実際に参加者ひとりひとりが風呂敷を手に取り、画面上の手本や講師の指導を参考にしながら、風呂敷の様々な結び方に挑戦していました。日本においては伝統的な風呂敷ですが、国外においては、新しいものとして人々に触れてもらえることもあるのだという気づきを得た取材でした。

小山市においても、伝統工芸である間々田ひもの組紐や、結城紬のコースターづくりを体験することができます。皆様もぜひ、ご自身の手で小山市の歴史と伝統に触れてみてください。



風呂敷の説明に興味深く聞く参加者